事　後　評　価　書

箇所名	一般国道422号 三田坂バイパス	事業名	道路事業	課　名	道路建設課 (伊賀建設事務所)

事業概要	工　期 (下段前回)※	平成８年度～ 平成31年度	全体事業費 (下段前回)※	9,856百万円 (負担率：国55%：県：45%)
		平成８年度～ 平成29年度		10,900百万円 (負担率：国55%：県：45%)

事業目的及び内容

■当該路線の状況

一般国道422号は、滋賀県大津市から伊賀市を経由し、県内陸部の急峻な地形を縦断して、北牟婁郡紀北町に至る延長約121kmの幹線道路です。伊賀市北部の山地部に位置する諏訪地区から伊賀市市街地の区間は、定期バスやスクールバスの運行ルートであり、地域の住民にとって、生活に欠かせない重要な路線です。

事業区間は、急峻な山間部に位置し、道幅が狭く急カーブ・急勾配が連続するため普通車でも対向が困難な状況であり、通行に支障をきたしていました。また、大型車が通行不能であるとともに、降雨時には、時間雨量35mm・連続雨量120mmに達した段階で、通行を規制する区間となっていたため、地域住民の生活環境に支障をきたしていました。

このようなことから、幅員狭小及び雨量通行規制の解消を図るため、平成８年度に事業着手し、平成29年度に完成しました。

一般国道422号三田坂バイパスの整備によって、幅員狭小及び雨量通行規制区間が解消され、安全で円滑な交通が確保されました。

■事業の目的

・安全で円滑な交通の確保
・雨量通行規制の解消

■事業の内容

・事業期間　24年間（平成８年度～平成31年度）
・総事業費　9,856百万円（工事費：9,325百万円，用地費：531百万円）
・計画延長　L=5,100m（起点）伊賀市諏訪～（終点）伊賀市三田
・幅　　員　W＝6.00（7.50）m
・主要構造物　トンネル　１本、橋梁　８橋

１・事業の効果

1-1　費用対効果分析

◆費用便益分析結果

区分		前回 (基準年：H27)	今回評価時 (基準年：R6)	備考
費用	事業費	119.0億円	166.9億円	
	維持管理費	1.8億円	3.2億円	
	合計	120.8億円	170.1億円	
効果	走行時間短縮便益	176.5億円	231.1億円	マニュアルの変更
	走行経費減少便益	28.6億円	38.4億円	マニュアルの変更
	交通事故減少便益	0.3億円	0.4億円	マニュアルの変更
	合計	205.4億円	269.4億円	
費用便益分析結果（B/C）		1.7	1.6	

※出典：費用便益分析マニュアル（令和５年１２月　国土交通省　道路局　都市局）

1-2　費用対効果の検証

◆走行時間短縮効果の検証

当該事業により、三田坂バイパス区間の走行時間が約５分短縮しました。

（開通前12分　→　開通後７分）

（距離：開通前6.8km　→　開通後5.7km）

◆走行経費減少効果の検証

当該事業により、旧道利用時に比べバイパス区間の旅行速度が改善され、走行経費が減少しました。

（開通前35.7km/h　→　開通後48.3km/h）※上下線の平均旅行速度

（距離：開通前6.8km　→　開通後5.7km）

◆交通事故減少効果の検証

旧道区間では、平成26年～平成29年の４年間で３件の事故が発生していました。本事業区間全線開通後の令和２年～令和５年の４年間では、旧道区間では事故が解消し、事業区間では２件発生しています。

1-3　その他の効果

①道路利用者（車両）の走行性向上

バイパスの整備により、狭小区間が解消され、２車線が確保されたことで、通行車両の安全なすれ違いが可能となりました。また、急カーブ、急勾配が解消され、道路利用者の走行性が向上しました。道路利用者の方から、危険リスクが低減され、安全に通勤できるようになったとの声を頂いています。

②地域住民の利便性向上

路線バス（１日６本）及びスクールバス（１日５本）の経路が三田坂バイパス経由に変更になりました。それにより、通行が円滑になり、児童が安全に通学できるようになったとの声を学校関係者の方から頂いています。

③道路利用者の安全性向上

旧道区間では、４年間で３件（平成26年～平成29年）の事故が発生していましたが、バイパスの整備により、旧道区間の事故は解消し、道路利用者の安全性が向上しました。また、旧道区間の交通量が減少したことで、旧道を横断する歩行者の安全性が向上したとの声を頂いています。

④雨量通行規制区間の解消

バイパスの整備により、雨量通行規制区間が解消されたことで、地域住民の降雨時の不安が解消され、安心して過ごすことが可能となりました。

⑤防災救急機能の強化

伊賀市諏訪・丸柱・音羽地域から伊賀市内、名張市内の医療施設に搬送する際の経路を三田坂バイパス経由に変更したことで、救急搬送時間が短縮しました。また、線形不良が解消され、搬送の患者や隊員への負担が軽減したとの声を頂いています。

⑥地域の産業支援

バイパスの整備により、大型車の通行が可能となりました。また、伊賀市から滋賀方面へのアクセスが向上し、運行距離が短縮したことで所要時間が約15分短縮したとの声を頂いています。

２・事業の環境面への配慮及び事業による環境の変化

事業の環境への配慮として、道路整備による流末排水への流水量の超過を防ぐため、調整池を設置しました。また、道路側溝に小動物が落下した場合、自力で脱出できるようスロープを設置しました。

３・事業を巡る社会経済情勢等の変化

当該路線は、伊賀市諏訪・丸柱地区から中学校や医療機関など生活関連施設のある伊賀市街地までを結ぶ路線であり、同地区の住民にとっては生活に欠かすことのできない重要な道路です。

さらに、平成 27 年４月に三田小学校と丸柱小学校が合併したことにより、スクールバスの通学路として利用されるようになり、重要度が高まりました。

また、伊賀市において柘植川に架かる山神橋の架け替え計画があり、当該路線を含めたネットワークが強化されることから、当該道路の必要性は一層高まっています。

４・県民の意見

一般国道422号三田坂バイパスの意見として、事業箇所周辺に住む2,263世帯へアンケートを配布するとともに、住民以外の広域的な地域にお住いの道路利用者に対してWEBアンケートを実施しました。住民アンケートは、844通のご回答をいただきました。WEBアンケートにおいては、250名の方からご回答を得られました。地域住民の約95%、道路利用者WEBアンケートでは、約88%が満足と回答しています。

また、利便性向上・救急活動等の視点から、関係機関へのヒアリングを実施しました。

満足と感じること

【地域住民・WEBアンケート】

・車道が広くなり、対向車とのすれ違いの際の危険がなくなり、安全で快適な走行が可能になった。
・伊賀市市街地までの所要時間が短縮し、買い物に行きやすくなった。
・名阪国道（上野IC）までの所要時間が短縮し、奈良・亀山方面へのアクセスが向上した。
・滋賀県、京都府方面へのアクセスが良くなり、行きやすくなった。
・新東名高速道路（信楽IC）へのアクセスが良くなり、所要時間が短縮した。
・かなりの時間が短縮できる。道もきれいで走りやすかった。
・信楽方面へのアクセスが良くなった。

不満と感じること

【地域住民・WEBアンケート】

①ゴミや空き缶、ペットボトル等のポイ捨てがある。

関係機関からの意見

・滋賀県に行きやすくなったことで交流の促進が図れるようになった（伊賀市役所）
・信楽、大津方面へのアクセスとして大変便利になった（上野商工会議所）
・バイパスにより安心・快適に走行できるようになった（伊賀市商工会）
・バイパスにより通勤しやすくなった（製造事業者）
・危険リスクが低減され、安全に通勤ができるようになった（製造事業者）
・二車線になり、道幅が広くなったことで運転しやすくなった。また、所要時間が短縮した（製造事業者）
・バイパスにより、搬送患者や隊員への負担軽減が図られたとともに所要時間が短縮されたと感じる（伊賀市消防本部）
・旧道区間の交通量が減少し、児童の登下校時の安全性が向上した（伊賀市立三訪小学校）

５・再評価の経緯

当該事業は、平成８年度から事業着手し、これまでに平成17年度、平成22年度に再評価を実施しています。平成27年度の再評価において、事業継続の妥当性が認められたことから、事業継続を了承されています。

６・今後の課題等

①定期的な道路巡視

→対応方針：定期的に道路巡視を行い、車両への通行支障が生じないよう適宜対応を図ります。

7・委員会意見の概要 【事業方針作成時に記述】	
8・事業方針の概要 【事業方針作成時に記述】	

※再評価実施事業は(下段前回)とし、前回再評価時の内容を記載する。未実施の場合は（下段当初）とし、当初計画時の内容を記載する。